

ISSN 2186 – 3989

学術集会開催報告

日本トリプトファン研究会第40回学術集会

(40th Annual Scientific Meeting of Japan Society for Tryptophan Research)

2022年2月26日(土)～3月7日(月) 北陸大学(オンライン開催)

薬学部 講師 池田 啓一

北 陸 大 学 紀 要
第53号(2022年9月)抜刷

学術集会開催報告

日本トリプトファン研究会第 40 回学術集会

(40th Annual Scientific Meeting of Japan Society for Tryptophan Research)

2022 年 2 月 26 日 (土) ~ 3 月 7 日 (月) 北陸大学 (オンライン開催)

薬学部 講師 池田 啓一

日本トリプトファン研究会 (JSTRY) は、『日本におけるトリプトファン (Trp) ならびに関連物質に関する諸分野での研究を推進し、併せて研究者相互の情報交換、交流、親睦を図る』ことを目的とし、発足された [1]。第 1 回目は、1976 年に神戸学院大学にて開催され [2]、国際トリプトファン学会が開催される年を除けば、毎年開催されている。本学術集会の 1 つ前、第 39 回の JSTRY は、2019 (令和元) 年 12 月に千葉大学で開催されており、第 40 回は、北陸大学で 2020 年度 (2021 年 2 月頃) に開催予定であった。しかし、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の感染拡大により、第 2 回目の緊急事態措置が 11 都府県で実施されており [3]、次年度の対面開催を視野に延期した。

2021 年度については、コロナ禍であっても、各種感染対策やワクチン接種が進んでいたこともあり、会場での最大収容人員の 50% 以下 (現在は、学術集会については解除されている [3]) などの制限はあったものの、他の学術集会での開催事例もあり、対面開催での機運が高まっていた。そんな中、*o* 株 (オミクロン株) の全国規模での感染拡大が始まり、石川県も含む広範な地域でまん延防止等措置が適用され [3]、対面での開催はあきらめざるを得なかった。ただし、北陸大学では、授業やオープンキャンパス等イベントのオンラインでの実施のノウハウが蓄積されてきていたので、周囲の協力を得ながら、2022 年 2 月に JSTRY では初のオンライン開催に踏み切ることができた (図 1) [4]。

今回の学術集会開催では、大学のシステムとして、Google form (参加登録)、YouTube (一般講演)、Zoom (シンポジウム) を利用し、円滑に進めることが出来た。また、北陸大学の沿革や施設紹介についての動画 (YouTube、オンデマンド限定公開) を利用し、北陸大学について知っていただく機会を設けた。今回は、対面での実施が叶わないこともあり、金沢市観光協会の許可を得たうえで HP へのリンクを張り、参加者に金沢について知っていただく機会とした。学術集会には、学部生、大学院生、そして、企業・研究所関係者、大学教職員の合計 65 名が参加した (図 2)。

Zoom を利用したシンポジウムでは、「トリプトファン研究における実験モデル・測定・評価」について 3 講演を行った (表 1) [4]。シンポジストの先生方の最先端かつ未来志向のご発表を受け、活発な質疑応答が行われた。また、本学の使命である「健康社会の実現」を考える機会として、講演内容と健康との関連を、各シンポジストにお話いただいた。

一般講演では、病態、疾病予防・健康、物質の機能などに関連して、哺乳類における Trp 代謝物や代謝酵素 (7 講演)、哺乳類以外の生物における Trp 代謝物 (1 講演)、酵素や食品タンパク質における Trp 残基のフリーラジカルによる修飾 (2 講演)、についての講演があった (表 1) [4]。これらは、YouTube でのオンデマンド型の一般講演 (参加登録者のみ 1 週間視聴可能)

日本トリプトファン研究会
第 40 回学術集会講演要旨集



北陸大学トリプトファン研究会 (JSTRY) の主催による学術集会。開催地：北陸大学。

会期：2022 年 2 月 26 日 (土) ~ 3 月 6 日 (日)
会場：オンライン
会長：斎藤利博 (福井県立大学)
学術集会長：池田啓一 (北陸大学)

図 1. 講演要旨集

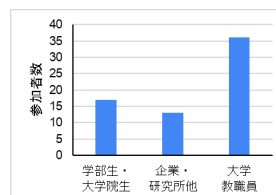


図 2. 参加者の内訳

で行われた。併せて個別でのメールでの質疑応答を行った。以上のように **Trp** という一つの物質を中心として、非常に幅広い内容を含んだ学術集会を行うことができた。

表1. 日本トリプトファン研究会第40回学術集会 シンポジウム、一般講演一覧[4]

<シンポジウム>2月26日(土)リアルタイム	【G4】母体炎症とトリプトファン代謝産物の変動によって引き起こされる神経発達症 ○村上 由希 (関西医科大学)
【S1】キヌレニンアミノ基転移酵素阻害剤 ハイスループットスクリーニングアッセイの構築について ○藤垣 英嗣 (藤田医科大学)	【G5】びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫細胞の生存率はキヌレニン-3-モノオキシゲナーゼにより制御される ○森田 那奈架 (藤田医科大学)
【S2】CE-FTMSによる次世代メタボミクス基盤の構築とその解析事例 ○紙 健次郎 (ヒューマンメタボロームテクノロジー株式会社)	【G6】キノリン酸蓄積が腎 NMDA 受容体サブユニットに及ぼす影響 ○石川 真美子 (ノートルダム清心女子大学)
【S3】食品への宇宙放射線の影響 ○初田真知子 (順天堂大学) ○川崎広明 (昭和女子大学)	<一般講演> 2月26日(土)~3月7日(日)オンデマンド
【G1】Indoleamine 2, 3-dioxygenase 2 欠失による乾癬病態増悪のメカニズム解明 ○酒井 里佳 (藤田医科大学)	【G7】GAN 食餌誘発肥満マウスモデルの肝臓では NAD ⁺ 代謝関連遺伝子発現が軒並み低下する ○高橋 万由花 (ノートルダム清心女子大学)
【G2】キヌレニンによる Jurkat T 細胞の走化性の抑制-重合アクチン量の解析から ○刀祢 重信 (東京電機大学)	【G8】トリプトファン系生体色素オモクロームの薬理効果の探索 -オミンによる PCR と制限酵素反応の阻害効果について- ○澤田 博司 (日本大学)
【G3】肝臓トリプトファン代謝変動が脳内キヌレニン酸濃度におよぼす影響 ○宮前 里帆 (滋賀県立大学)	【G9】ウサギ筋肉ビルビン酸キナーゼのペルオキシナイトライトによる活性低下 ○池田 啓一 (北陸大学)
	【G10】調理過程が食肉中のニトロ化トリプトファンに及ぼす影響の解明 ○川崎 広明 (昭和女子大学)

※ 本リストは発表責任者の先生方の許可を得て該当箇所を転載

今回の学術集会のオンライン開催では、2年ほどぶりに、参加者のお顔を拝見し、シンポジスト、座長、質問者との間で会話をすることが出来た。一方で講演以外の場での会話が出来なかった。次回も担当する第41回学術集会については、今回不十分であった『研究者相互の情報交換、交流、親睦を図る』場を参加者全員に提供するために、対面での開催が出来るよう、参加希望者に対し普段からの感染予防の徹底を呼び掛けながら、現在準備を進めている。

謝辞

日本トリプトファン研究会第40回学術集会開催にあたり、日本アミノ酸学会、学校法人北陸大学にご後援、また本研究会幹事の先生方にもご協力いただきましたことを御礼申し上げます。

なお本稿執筆にあたり、学術集会でのご講演の発表責任者の先生方には、演題名等の記載についてご承諾いただきましたことを改めて感謝申し上げます。

参考文献

1. 日本トリプトファン研究会会則、昭和58年12月10日、日本トリプトファン研究会
2. 太田好次、日本トリプトファン研究会第32回学術集会要旨集、p. 14、2010年12月
3. 内閣官房新型コロナウイルス等感染症対策推進室 (<https://corona.go.jp/emergency/>)、(2022年7月25日閲覧)
4. 日本トリプトファン研究会第40回学術集会講演要旨集、2022年2月